

福岡市・オンライン活動案について

■本活動案の目的

本活動案は、地域のボランティアの方々がオンラインでも活動できるように作成されたものです。対面に比べ、オンラインの活動は苦手な方もいると思いますが、少しの工夫で楽しいものになります。例えば、本活動案で取り上げる『「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト つながるひろがるにほんごでのくらし』（以下、『つなひろ』）などのオンライン教材を活用することです。本活動案は、ボランティアの方々が『つなひろ』を用いて、zoom などの基本的な操作のみで楽しく活動できることを目的に作成されました。

■本活動案の特徴

本活動案はボランティア教室の特徴である「交流する喜び」を大切にした上で、『つなひろ』を用いた活動を提案しています。この「交流する喜び」とは、学習者が自分のことを表現できている状態です。したがって、本活動案は、『つなひろ』の各場面・話題にそくして学習者が自分のことを伝えられるような支援者からの問いかけが軸になっています。その後で、『つなひろ』の動画を用いた活動を行います。『つなひろ』の活用方法も、学習者と交流が生まれるように、学習者が動画の内容を推測して表現したり、聞き取れたことばを伝えたりする形を提案しています。

■本活動案の構成と使い方

本活動案は1回60分です。その60分を「はじめ・なか・おわり」と分け、それぞれ約20分の活動です。活動は大きく「自分のことを伝えよう」「『つなひろ』で学ぼう」の2つです。

① はじめ(20分)

自分のことを伝えよう

+

『つなひろ』で学ぼう

② なか(20分)

自分のことを伝えよう

+

『つなひろ』で学ぼう

③ おわり(20分)

自分のことを伝えよう

本活動案は、15回分の授業から構成されています。各授業は、独立していますので、順番に通りでなく、学習者のレベルや興味関心に合わせた回を使用してください。

60分の教室活動を作ることができるように、1回の授業の流れを時系列に記載することで、イメージしやすく記載しています。

■学習者の日本語レベル、人数

本活動案が想定している学習者の日本語レベルは初級段階です。「日本語教育の参照枠」ではA1～A2（基礎段階の言語使用者）です。活動はボランティア1名が学習者1～4名に対し活動することを想定しています。

■自学用教材

本活動案の末尾に、『つなひろ』の各動画に出てくる語彙、文法を小テスト形式で学べる教材の URL がついています。学習者にこの URL をお送りください。

■授業の準備

本活動は web 会議ツールの使用を想定しています。ボランティアと学習者が共通のツールを使用し、インターネットに接続できる環境さえあれば、活動することが可能です。機材は、パソコンやタブレットの他、スマートフォンでも実施することが可能です。

■目次と教材

本活動案	『つなひろ』の使用シーン
LV1-1 いろいろなあいさつをしよう	レベル1「シーン1 あいさつをしよう」
LV1-2 食べ物を買に行こう	レベル1「シーン2 身近なものを買ってみよう」
LV1-3 服を買に行こう	レベル1「シーン5 お店の人に希望を伝えてみよう」
LV1-4 食事に出かけよう	レベル1「シーン6 レストランへ行ってみよう」
LV1-5 電車に乗って出かけよう	レベル1「シーン8 電車にのってみよう」
LV1-6 ルールを守ってごみをすてよう	レベル1「シーン11 住民としてのマナーを理解しよう」
LV1-7 宅配便を利用しよう	レベル1「シーン7 宅配便を利用しよう」
LV1-8 道を聞いてみよう	レベル1「シーン9 道をきいてみよう」
LV2-1 病院へ行こう	レベル2「シーン8 病院へ行こう」
LV2-2 コンビニを使おう	レベル2「シーン2 お店のサービスを利用してみよう」
LV2-3 助けをよぼう	レベル2「シーン9 緊急のときは助けをもとめよう」
LV2-4 イベントに行こう	レベル2「シーン7 イベントに 行ってみよう」
LV2-5 図書館に行こう	レベル2「シーン11 図書館に 行ってみよう」
LV2-6 上手に買い物をしよう	レベル2「シーン5 上手に買い物をしよう」
LV3 防災について考えよう	レベル3「シーン5 防災について考えよう」

※ 『つなひろ』の各場面は、日本語レベルが初級段階の外国人が、日常生活を送るうえで必要性が高いシーンを選んでいきます。

※ 『つなひろ』は、外国人が遠隔で生活場面に応じた日本語を学習できるように開発されたものですが、『つなひろ』の場面、話題をきっかけとした支援者からの問いかけにより、支援者と学習者、また、学習者同士のオンラインによる交流を生み出すことができます。